

福岡市教育センター G 研研究主題 「書き出し、書き表す力を育てる作文指導法の研究」

第2学年 国語科学習指導案

1. 単元名 お話 大すき 「こんなお話を考えた」

2. 指導観

○ 低学年で身につけさせたい書き出し、書き表す力

自分の考えが明確になるように、簡単な組み立てを考える力
 事柄の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書く力

○ 本学級の子供たちの実態

本学級の子供たちは、1学期単元「お手紙こうかん会」で、相手に伝えたいことを書くときに組み立てを考えるという学習をしている。友達との手紙のやり取りを通して、尋ねる文や答える文の表現の仕方も理解し、「はじめ・なか・おわり」という簡単な組み立てを考えながら楽しんで書くことができた。また、学習で学んだことを生かして、招待給食に来て下さった地域の方へのお手紙を書くことができた。

しかし、全員が自分の考えや思いがよく伝わるように自分で組み立てを考えて書くことはまだ難しい。また、語と語や文と文がうまくつながらなかったり、そのまちがいに気づけなかったりすることがまだ度々見られる。本単元で行う「ストーリーのあるお話を書く」ことは、1・2年を通して初めての学習である。

本学級の子供たちは、1学期の初めから連絡帳（視写、聴写）や国語の学習（視写）、「今週のニュース」などを活用し、毎日何らかの書く活動（書き慣れる活動）を行っている。取り組みの継続で、文章を書く速さや文章の記述の仕方、内容面での向上が見られるが、已然「書くこと」に苦手意識や抵抗感を持っている子供たちが見受けられる。子供たちにアンケートを行った結果、次のような答えが返ってきた。

1 国語の学習の中で、好きなものに○をつけて下さい。（複数回答可）

話す・聞くこと … 9人 書く … 14人 読む … 16人

2 あなたは、文章を書くこと（作文）が好きですか。そのわけも教えて下さい。（複数回答可）

大好き … 12人 好き … 7人	嫌い … 4人 大嫌い … 4人
・ ほかに人に読んでもらえるから 4人	・ 書くことがめんどろだ（手が痛い）から 4人
・ 書くことがすぐ決まるから 9人	・ 何を書けばよいか分からないから 7人
・ 文の作り方や文と文のつなぎ方が分かるから 7人	・ 文の作り方や文と文のつなぎ方が分からないから 2人
・ おもしろい書き方（言葉）が分かるから 13人	・ 思うとおりに書くことができないから 5人
(その他) ・ お話が好きなので、書くのも好き	(その他) ・ 鉛筆をもつと分からなくなる
・ 字の練習にもなる	・ 何と何をつなげていいか分からない
・ 楽しいから	
・ みんなにあったことを教えられるから	

3 文章を書いていて、困ったな、分からないなと思うことはどんなことですか。（3つまで）

- | | |
|----------------------------------|----------------------------|
| ・ 何を書いてよいか分からない 13人 | ・ どうすればもっとよくなるか分からない 15人 |
| ・ どんな順番で書けばよいか分からない 5人 | (その他) |
| ・ 文の作り方が分からない 4人 | ・ 作文の空けるところ（改行、段落など）が分からない |
| ・ 文と文のつなぎ方が分からない 5人 | ・ どこに「、」をつけていいのかわからない |
| ・ 読み返したときに、どこがよいか（わるいか）分からない 14人 | ・ 自分の席に戻ったら、先生のアドバイスを忘れる |
| | ・ 時間が足りない |

アンケートを見ると、意外にも「書くこと」が好きだと感じている子供たちが多かった。しかし、内容を詳しく見ていくと、選材や構成、記述、推敲の各段階で困っている子供たちの姿も浮かび上がってきた。また、学級の半分以上の子供たちが、長い文章を書くことや、自分が書いたものを読み直して書き直す（清書する）ことに苦手意識を持っていることが分かった。本学級の子供たちは、「書くことは好きだが、自分の思いをどのように表現したらよいのか悩んでいる」と分析することができる。

そこで、書くことの楽しさをもっと実感させるとともに、どのように書いたら自分の思いを表現することができるのか、記述の段階に繰り返し練習学習を取り入れながら、書き出し、書き表す力を育てていくことが必要であると考えた。

○ 本教材の価値

本教材は、「ストーリーのあるお話を書く」初めての教材である。「三まいのおふだ」では、文字がほとんどなく、登場人物のいくつかのセリフだけしか載せられていない。文字を追って読むことを苦手としている子供たちにも、抵抗なく学習に入ることができるものと思われる。ここで、十分子供たちのイメージを広げ、お話の世界を思い描かせることで、続く絵本作りでも自分のストーリーを楽しみ、登場人物の行動や心情を思い描くことができると考える。

自由に想像してお話を作ることには、どの子供も意欲をもつと考えられるが、初めての経験のため何の手がかりもないところから想像することに抵抗をもつ子供もいると考えられる。そこで、数枚の挿し絵や児童作例を提示し、「お話作りのポイント」を話し合ったり、挿し絵を並べ替えてお話を考える時間を設定したりすることにより、子供たちの想像を広げ、「お話を自分で作ってみたい」という意欲を生み出すことができると考える。

また、書き上げた作品を読み合う中で、題の多様さ、人物のネーミングのおもしろさはもちろん、一人一人が考えたお話の展開の楽しさを味わうことができると考える。さらに、表紙などをつけて簡単な絵本にすることで、子供たちは満足感や成就感をより一層味わうことができ、以降の書く意欲を高めることができると考える。

○ 本教材で身につけさせたい書き出し、書き表す力

挿し絵を使いながら、自分なりにお話の「はじめ・なか・おわり」を考える力
お話の手順を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意しながらお話を書く力

○ 書き出し、書き表す力を育てるための指導のあり方 (導入では)

まず、「三まいのおふだ」の挿し絵を見ながら、どんなお話か簡単に話し合う。次に、ページをめくるタイミングを指示しながら何度か繰り返しお話を読み聞かせる。その後、どんなお話だったか振り返らせ、面白かった場面や言葉について感想を発表させる。また、このときに、教師が作ったお話や2年生の子供たちが作ったお話も合わせて読み聞かせるとともに5枚の挿し絵を提示し、お話を聞く楽しさを十分味わわせながら、「自分でお話（絵本）を作る」ことへの興味をもつことができるようにする。

「自分でお話（絵本）を作る」ことは初めての体験なので、これからの学習の見通しをもつことができるようにするために、まず児童作例を詳しく読む。このときに、児童作例を不十分なものに書き直したものを「児童作例の下書き」として提示し、それぞれを比べながら、気づいたことを「お話作りのポイント」としてまとめていく。この「お話作りのポイント」は常に掲示しておき、子供たちがお話を作るときに参考にすることができるようにしておく。また、この「お話作りのポイント」を押さえて書けば、楽しいお話を書くことができることや、作ったお話を1年生に読み聞かせることを確認し、「自分でお話を作る」ことへの意欲を高めるとともに、「まず、楽しいお話の書き方を練習しなければならない」という必要感や意欲をもたせる。

〈 記述①（練習学習）では 〉

次に、学習計画に従って、みんなでまとめた「お話作りのポイント」を活用しながら、楽しいお話を書くために下記の練習学習を行う。

練習学習①「できごとがよく分かるように書く」

練習学習②「様子がよく分かるように書く」

練習学習③「会話文を入れて書く」

それぞれの練習学習では、全体でやってみる→個人でやってみるという2回の練習を行っていく。練習学習で学んだことは、「お話作りのポイント」に書き加えていき、後でのお話作りの参考にすることができるようにしておく。

〈 構成では 〉

実際のお話作りに入るが、まず、挿し絵をもとにお話の順番を考え、簡単なメモを書く。ここでは、それぞれの挿し絵の下に、①「いつ」「どこで」「だれが」「何をしているのか」、②「そのときの周りの様子」を五感のマークを取り入れながら書くようにしておく。

〈 記述②（お話作り）では 〉

まず、「はじめ」の場面だけを書くようにする。このとき、「はじめ」の場面に同じ挿し絵を選んだ子供たちでグループを作っておき、お互いに相談したり意見交換をしたりすることができるようにしておく。また、お話を書くときには一行ずつあけて書くようにし、書き直しや書き加えがしやすいようにする。次に、「なか」と「おわり」の場面を書く。「はじめ」の場面のとくと同様、近くにいる友達と読み合いながら意見交換をしたり見直したりしていく。

〈 推敲（清書）では 〉

まず、「はじめ」「なか」「おわり」を続けて読み、文が正しくつながっているか、楽しいお話になっているかチェックする。このとき、「お話作りのポイント」をもとにして作ったチェックカードにチェックしながら見直すようにする。

最後に、文と挿し絵のレイアウトを考え、絵本の形に清書する。友達と絵本を交換して読んだり、1年生に読み聞かせを行ったりして、満足感を十分に味わうことができるようにする。

3. 単元目標

- 絵を見て想像を広げながら読み聞かせを聞いたり、友達が作ったお話を読んだりして、お話のおもしろさやお話を作ることのおもしろさを味わうことができる。
- 場面の絵を見て想像を広げ、言葉の使い方や正しい表記法を学んだり考えたりしながら、お話を書くことができる。
- 「はじめ・なか・おわり」など、簡単な組み立てを考えてお話を書き、絵本を作ることができる。

4. 学習計画（全15時間 — 読む…4時間、書く…11時間）

配時	学 習 活 動	○教師の支援 ※書き出し、書き表す力育成のための支援
— 1	1. 教科書の挿し絵を見て、どんなお話か想像する。 2. 挿し絵を見ながら、「三まいのおふだ」のお話を聞く。 3. お話で面白かったところを話し合う。	○ 挿し絵を見て想像したことを自由に発表させる。 ○ ページをめくるタイミングを指示しながら、読み方を工夫し、何度か繰り返し読む。 ○ 挿し絵を見ながら、どんなお話だったか振り返らせるとともに、面白かった場面や言葉について感想を発表させる。

二 1	<p>1. 教師の読み聞かせを聞き、いろいろなお話に親しむ。</p> <p>2. 絵本作りをすることに興味を持つ。</p>	<p>○ 挿し絵から場面の様子が想像でき、話の筋が分かりやすい楽しい話をできるだけたくさん読み聞かせる。</p> <p>※ 教師が作ったお話や2年生の児童が作ったお話も一緒に読み聞かせ、絵本作りへの意欲が持てるようにする。</p> <p>※ 5枚の絵の中から3枚選びお話をすることと、どんなお話にするか(どの絵を選ぶか)、大まかでいいので自分なりに考えておくようにすることを伝える。</p>
三 2	<p>1. どうすれば、楽しいお話を書くことができるか考え、話し合う。</p> <p>2. 気づいたことを「お話作りのポイント」としてまとめる。 (お話作りのポイント)</p> <p>○ できごとがよく分かるように書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間や場所をはっきりさせる。 ・ 登場人物に名前をつける。 ・ 話の順番を考えて、話がつながるように書く。 <p>○ 様子がよく分かるように書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色、様子を表す言葉を入れる。 ・ 音なども入れる。 <p>○ 会話文を入れて書く。</p> <p>3. これからの学習計画を立てる。</p> <p>① 楽しいお話を書くことができるようになるために、書き方を練習する。</p> <p>② 練習したことを生かしてお話を書く。</p> <p>③ 作ったお話を友達と交換して読んだり、1年生に読み聞かせたりする。</p>	<p>※ どんなことを書いているか、児童作例を一文一文読みながら考えさせる。</p> <p>○ 児童が気づいたお話作りの工夫を「お話作りのポイント」として構造的に板書する。</p> <p>※ 児童作例とともに、児童作例を不十分なものに書き直したものを「児童作例の下書き」として提示し、お話作りのポイントに気づくことができるようにする。</p> <p>※ 「お話作りのポイント」は、今後お話を書くときや推考するとき、アドバイスをし合うときの参考になるように常に掲示しておくようにする。</p> <p>※ 「お話作りのポイント」を押さえて書けば、楽しいお話を書くことができることや、作ったお話を1年生に読み聞かせることを確認し、「まず、楽しいお話の書き方を練習しなければならない」という必要感や意欲をもたせる。</p>
三 1	<p>1. できごとがよく分かるには、どのように書けばよいか話し合う。</p> <p>○ 「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」ということを落とさずに書くことを理解する。</p> <p>○ 順序を表す言葉を入れて書くと、さらに分かりやすくなることを理解する。</p> <p>2. 実際にお話作りで使う挿し絵を使って、みんなで話し合いながらお話を作る。</p> <p>3. 学習で学んだ「お話作りのポイント」をまとめる。</p>	<p>練習学習①</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">できごとがよく分かるように書く</div> <p>○ 前時に立てた学習計画を確認しながら、練習学習①を行う。</p> <p>※ 学習プリントを使い、「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」ということを落とさず書いたり、順序を表す言葉を入れて書いたりすれば、できごとがよく分かることを実感することができるようにする。</p> <p>※ 学習して学んだことを実際に使って書いてみることでより一層の理解と定着を図る。</p> <p>※ お話作りで実際に児童が作った文を「お話作りのポイント」の中に書き加え、後のお話作りのときの参考になるようにする。</p>
三 1	<p>1. 様子がよく分かるには、どのように書けばよいか話し合う。</p>	<p>練習学習②</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">様子がよく分かるように書く</div> <p>○ 学習計画を確認しながら、練習学習②を行う。</p>

1	<p>○ 五感を使って書くと分かりやすくなることを理解する。</p> <p>○ たとえを使って書くと分かりやすくなることを理解する。</p> <p>2. お話を書く練習をする。</p> <p>(1) みんなで話し合いながら書いてみる。</p> <p>(2) 実際にお話作りで使う挿し絵を使って書いてみる。</p> <p>3. 学習で学んだ「お話作りのポイント」をまとめる。</p>	<p>※ 学習プリントを使い、五感を使って書くとはどういう事なのか、たとえを使って書くとはどういうことなのか、実際に書いてみながら、その方法や良さを実感することができるようにする。</p> <p>※ 学習して学んだことを実際に使って書いてみることでより一層の理解と定着を図る。</p> <p>※ 1回みんなで練習した後、個別に書くようにする。</p> <p>※ お話作りで実際に児童が作った文を「お話作りのポイント」の中に書き加え、後のお話作りのときの参考になるようにする。</p>
1	<p>1. 会話文を入れて書くには、どのようにすればよいか話し合う。</p> <p>2. お話を書く練習をする。</p> <p>(1) みんなで話し合いながら書いてみる。</p> <p>(2) 実際にお話作りで使う挿し絵を使って書いてみる。</p> <p>2. 学習で学んだ「お話作りのポイント」をまとめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>練習学習③ 会話文を入れて書く</p> </div> <p>○ 学習計画を確認しながら、練習学習③を行う。</p> <p>※ 学習プリントを使い、会話文の正しい書き方（「。」をつける、行を変えて書く）を再確認したり、会話文を入れる方法やその良さを実感的に理解することができるようにする</p> <p>※ 学習して学んだことを実際に使って書いてみることでより一層の理解と定着を図る。</p> <p>※ 1回みんなで練習した後、個別に書くようにする。</p> <p>※ お話作りで実際に児童が作った文を「お話作りのポイント」の中に書き加え、後のお話作りのときの参考になるようにする。</p>
1	<p>1. 挿し絵を選び、動物たちが何をしているのか考えながら、お話の「はじめ」「なか」「おわり」を考える。</p> <p>(1) 挿し絵をお話の通りに並べる。</p> <p>(2) どんなお話にするか考えメモを書く。</p>	<p>○ お話の展開を様々なものにするために、挿し絵の種類を増やし、5種類の挿し絵から3枚を選ぶようにする。</p> <p>○ それぞれのお話の内容にあった挿し絵にすることができるように、挿し絵は線画のものを用意し、自由に色をつけることができるようにしておく。</p> <p>※ 各場面毎に、「いつ」「どこで」「だれが」「何をしているのか」、その場面で入れたい周りの様子や使える五感などをマークを使いながらメモしていくようにする。</p> <p>※ なかなか書けない児童には、掲示している「お話作りのポイント」を参考にするよう助言したり個別指導したりする。</p>
四 1 本 時	<p>1. 今までに学習した「お話作りのポイント」やお話メモをもとに、「はじめ」の場面を書く。</p> <p>2. 「はじめ」の場面を読み合い、アドバイスし合う。</p> <p>3. アドバイスされて分かったことをもとに、書き直したり書き加えたりする。</p>	<p>○ 初めの場面で同じ挿し絵を選んだ児童同士でグループを作っておく。</p> <p>※ お話を書くときは、一行ずつあけて書くようにする。</p> <p>※ グループでそれぞれが書いた「はじめ」の場面を交換して読み、良いところや変えた方がいいところをお互いに出し合う。</p> <p>※ アドバイスされて分かったことを参考にしながら、一行ずつあけていたところに書き直した文を書いたり、書き加えてたりしていく。</p>

1	<p>1. 「なか」と「おわり」の場面を書く。</p> <p>2. 「なか」と「おわり」の場面を読み合い、アドバイスし合う。</p> <p>3. アドバイスされて分かったことをもとに、書き直したり書き加えたりする。</p>	<p>※ お話を書くときは、「はじめ」のときと同様、一行ずつあけて書くようにする。</p> <p>※ グループでそれぞれが書いた「なか」と「おわり」の場面を交換して読み、良いところや変えた方がいいところをお互いに出し合う。</p> <p>※ アドバイスされて分かったことを参考にしながら、一行ずつあけていたところに書き直した文を書いたり、書き加えてたりしていく。</p>
2	<p>1. 作品を読み返し、推敲する。</p> <p>2. レイアウトを考え、絵を描き（色をぬり）、清書をする。</p> <p>3. 後書き、書いた人の紹介、表紙を作り、本の形にする。</p>	<p>○ 作品をもう一度最初から読み直し、話がきちんとつながっているか、誤字脱字がないか、チェックシートで確認しながら推敲するようにする。</p> <p>○ 挿し絵の位置が自由に決められる用紙を準備し、自分の創意工夫を生かすことができるようにする。</p> <p>○ 教科書の後書きを参考にしながら、後書きや書いた人の紹介を書くようにする。</p> <p>○ 「世界に一つだけの自分の絵本を作った」という充実感をもつことができるようにするために、製本テープなどを使い、絵本の形に製本する。</p>
五 1	<p>1. 友達の絵本を読み合い感想を交流する。</p> <p>2. 1年生への読み聞かせの準備・練習をする。</p>	<p>○ 友達の絵本を読んで、よいと思ったことをカードに書き、お互いに交換するようにする。</p> <p>○ 1年生に分かりやすく読み聞かせができるようにするために、同じグループの人とお互いに読み合って練習するようにする。</p>
1	<p>1. 自分のペアの1年生に、自分が作ったお話を読み聞かせる。</p>	<p>○ 2年生の両脇に1年生を座らせ、読み聞かせをするようにする。</p> <p>○ 1年生にお願いして、お話を聞いた感想をカードに書いてもらうようにする。</p>

6. 本時の目標

- 前時に書いたメモをもとに、今までに学習したことを生かしながら、楽しんでお話の「はじめ」の場面を書くことができる。
- 語と語や文と文の続き方に注意して読み返し、不十分なところを書き直したり、友達や自分の表現の良さに気づいたりすることができる。

7. 本時指導の考え方

本時学習は、前時に書いたメモや今までに学習したことを生かし、語と語や文と文の続き方に注意しながら、お話の「はじめ」の場面を楽しんで書くことをねらいとしている。

前時までに子どもたちは、学習計画に沿って3つの練習学習（①「できごとがよく分かるように書く」、②「様子が分かるように書く」、③「会話文を入れて書く」）を行い、それぞれで学んだことを「お話作りのポイント」としてまとめてきている。前時では、5つの挿し絵から自分が好きなものを3つ選び、それを順番に並べて、それぞれの挿し絵の下に①「いつ」「どこで」「だれが」「何をしているのか」、②「そのときの周りの様子」を簡単に書いている。

本時学習にあたっては、まず、本時学習のめあてを確認するときに、教室全面に掲示している「お話作りのポイント」を指しながら、お話を書くときに注意する3つのこと（①「できごとがよく分かるように書く」、②「様子が分かるように書く」、③「会話文を入れて書く」）をもう一度押さえる。

そして、前時に書いたお話のメモをもとに、おはなしの「はじめ」の部分を書く活動に入る。ここでは、後で読み直したときに付加・修正しやすいように、一行ずつ空けて書くようにさせる。なかなか書き出せない子供には、今までの学習で使ったノートや練習学習で書いた文を参考にさせたり、お話のメモと一緒に確認したりしながら助言していく。また、同じ挿し絵を選んだ子供たち同士でグループを組んでいるので、お互いに読み合ったりしてよいことなどを助言していく。

次に、子供たちがある程度書くことができた段階で、一度グループや全体でそれぞれの作品を読み合い、アドバイスし合う時間を設定する。ここでは、下記のようなチェック項目に印を付けながら、それぞれの良いところや書き直した方が良いところを見つけることができるようにする。

- 〈チェック項目〉
- ① 「いつ」「どこで」「だれが」「何をしているのか」が分かるように書いてあるか。
 - ② 「まわりの様子（景色、音など）」が書いてあるか。
 - ③ 「会話文」が入っているか。

全体の交流では、全員の作品を取り上げることはできないので、各グループから1名ずつ程度、全体に広げたい作品を選び、教材提示装置を使って全体で確認するようにする。このとき、それぞれの表現の良さや工夫を「お話作りのポイント」と結びつけながら押さえていく。

その後、友達からのアドバイスや全体での交流で分かったことをもとに自分の作品を見直し、書き直したり書き加えたりする時間を設定する。ここでは、一行空きの部分を活用し、清書するときに分からなくならないよう助言する。最後に、次時は、「なか」と「おわり」の場面を書くことを知らせ、本時学習で学んだことを次の時間に生かしたいという意欲をもつことができるようにする。

— 検証の視点 —

- 子どもたちが今までの練習学習で学んだこと生かして、お話の「はじめ」の部分を書くことができたか。
- 書き出し、書き表す力を身につける学習として成立していたか。
 - ・ 練習学習（①～③）や「お話作りのポイント」、前時に書いたメモは有効であったか（本時の学習に生きていたか）。
 - ・ 自分たちが書いた「はじめ」の部分を全体場で交流したことは有効であったか。
 - ・ 同じ挿し絵を選んだ子供たちでグループを組み、意見交換をしたことは有効であったか。
 - ・ ワークシートの工夫（一行あけて書く、チェック項目）は有効であったか。

8. 本時の展開

学 習 活 動	○ 教師の支援 ※ 書き出し、書き表す力を育てるための支援
<p>1. 本時の学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>— 学しゅうのめあて — 今までの学しゅうで学んだことや お話のメモを生かして、お話の「はじめ」のぶ分を書こう。</p> </div> <p>2. 今までに学習した「お話作りのポイント」やお話のメモをもとに、「はじめ」の場面を書く。</p> <p>3. 「はじめ」の場面を読み合い、アドバイスし合う。 (1) 同じ挿し絵を選んだグループで</p> <p>(2) クラス全体で</p> <p>4. アドバイスされて分かったことや話し合いを通して分かったことをもとに、書き直したり書き加えたりする。</p> <p>5. 次時の学習について知る</p>	<p>○ 前時に書いたお話のメモや掲示物ををもとに今までの学習を想起させ、学習への意欲をもたせる。</p> <p>※ 本時の学習のめあてを確認するとき、「今までの学習で学んだこと」に線を引き、教室側面に掲示している「お話作りのポイント」をもう一度確認する。</p> <p>○ お話の「はじめ」の場面で同じ挿し絵を選んだ子供たち同士でグループを作っておく。</p> <p>※ お話を書くときは、一行ずつあけて書くようにする。</p> <p>※ なかなか書けない子供には、前時に書いたお話のメモや「お話作りのポイント」を参考にするよう助言したり、同じグループの友達が書いたものを見せてもらったりするようにする。</p> <p>※ グループでそれぞれが書いた「はじめ」の場面を交換して読み合い、チェック項目に印を付けながら、良いところや変えた方がいいところをお互いに出し合う。</p> <p>○ 友達の表現の良いところに目を向けることができるようにするために、自分が良いと思ったところに色鉛筆で線を引くようにする。</p> <p>○ 各グループから一つの作品を選び、教材提示装置で全体に見せながら、グループで話し合ったことを発表させる。</p> <p>※ それぞれのグループで共通している良いところを「お話作りのポイント」やチェック項目と関連させながら押さえていくようにする。</p> <p>※ 書き出しの工夫をしている作品（会話から始める、まわりの様子から始める等）を紹介し、色々な書き出し方があることに気づくことができるようにする。</p> <p>※ アドバイスされて分かったことや話し合いを通して分かったことを参考にしながら、一行ずつあけていたところに書き直した文を書いたり、書き加えたりしていくよう助言する。</p> <p>○ 次時は、本時の学習を生かしながら、「なか」と「おわり」の場面を書くことを知らせる。</p>